2016年5月25日(毎月5･15･25日発行)兵庫保険医新聞(昭和43年6月12日第三種郵便物認可)号外(年間購読料12,000円)

淡路支部ニュース
2016. 5. 25
No. 325

兵庫県保険医協会淡路支部
〒656-0051 洲本市物部3-3-44 松本産婦人科内
TEL 0799-22-0073

第８９回評議員会

改定サポート、医療運動引き続き充実を

協会は５月15日（日）、第89回評議員会を開催、106人が参加した。淡路支部からは中谷正史評議員が出席し発言（**写真**）、松本敬明評議員が文書発言した。特別講演では、「本当の医療崩壊はこれからやってくる」をテーマに、外科医・前済生会栗橋病院院長補佐本田宏先生が講演した。

Let's...

改札口を出ると無人タクシーがやってくる、それに乗りホテルへ着くとロビーにいるロボットとの対話の後、部屋へ入るとすぐに美女が食事を運んでくる、それは全くのお気に入りの品々…ＡＩ時代とすれば…（ＡＩとは人間が知能を駆使して行う行動をコンピューターによって実現する技術全般を指すと定義されている）診察室ではＡＩドクターが診察をし、手術をする。囲碁では名人が敗けましたね。

大正生まれの私、戦前はラジオだけ、戦後になり白黒テレビからカラーテレビへ、神戸へ行くバスの中で中高生のような人が左右の席に座りケータイでゲームをやっている、阪神電車で尼崎付近で「事故で梅田着がちょっと遅れます」途端に乗客の八割がポケットからケータイを取り出すという光景を目にした。昨今は町のいたるところでスマホを眺めている人々、会議はテレビ会議、友人知人とはいつの間にやらインターネット、ｅメールで…ほとんどの家庭にはパソコンが始終カチャカチャ…最近テレビ画面の右下方に、「フェイスブックしております」の文字を見る。一方２～３日前のテレビで発信者がわかる、何百枚の写真の中から一枚を取り出す機能を持つ…と放映していた。つまり始終見張られていることになるワケである。

あいかわらず変なことが起こっている今年もまもなく後半に入る。メジャーはリオオリンピックとアメリカ大統領選挙。大統領不在、ジカ熱が収束しないブラジル、どんなオリンピックに、トランプ氏の怒号？のアメリカ。

熊本の地震早く収束してほしいもの。数カ月も余震の続く地震なんて、これも変？

（20日松本記）

2016年5月25日(毎月5・15・25日発行)兵庫保険医新聞(昭和43年6月12日第三種郵便物認可)号外(年間購読料12,000円)

医療機関職員接遇研修会　感想文

研修で再確認したことを日々に活かしたい

協会淡路支部は4月9日、洲本市文化体育館で職員接遇研修会を開催、医師、歯科医師、スタッフなど43人が参加した。医療機関スタッフの感想文を掲載する。（前号に報道を掲載）

研修後は、ホスピタリティ（相手を思いやる気持ち）を表現できるように意識するように心がけています。

松田先生の研修を受け、いつも当たり前のようにしていたあいさつ、返事、会話も意識して変えないといけないと思いました。グループワークを交えながらの研修は、自分のできていると思う気持ちを変えてくれるもので、職場で何気なくしているあいさつ一つにしても、表情や態度、声のトーン、話すスピードなどでまったく違うものになるということを再確認できました。

自分が意識することで、いつも患者様は私たちの言動をよく見ていると思いました。言葉に出すだけではなく、顔と声の表情を意識し、相手へのプラスの気持ちを表現し、患者様に安心して診察を受けてもらえる様に心がけていきたいです。忙しい業務の中、接遇を常に意識することは大変な時もあります。日々の訓練で当たり前にできるようになって行きたいと思います。

また、具体的な内容のケーススタディもあり、今後医院で大いに活かすことができると思います。電話対応やクレーム対応についても学ぶことができました。

接遇の基本は、看護にも大切なことであり、自分を見つめなおすきっかけにもなりました。この研修で培ったことを今後、活かせるように日々続けて行動していきたいと思います。

【洲本市・三木内科医院・岡　梨絵】

2016年5月25日(毎月5･15･25日発行)兵庫保険医新聞(昭和43年6月12日第三種郵便物認可)号外(年間購読料12,000円)

患者負担増計画をストップ！ 県下３万筆達成にご協力を

政府が次々と計画する患者負担増を阻止しようと、協会が取り組む新しい請願署名。７月までに県内で３万筆を目標に取り組んでいます。現在県下で１万筆を超えました。淡路支部の目標は1000筆です。達成にぜひご協力をお願いいたします。署名を集めていただくため、ポケットティッシュや投函箱など、さまざまなグッズも用意しています。

注文はTEL078－393－1807／FAX078－393－1820まで。

現在の到達状況

県全体　10,155筆
淡路支部　474筆

（5月23日現在）

兵庫県保険医協会第 48 回総会

記念講演

マラリア対策から学ぶ ～行動は変えられるか

神戸大学名誉教授　川端　眞人　先生

マラリアは古くから人類を苦しめる病気です。最大の病気負担は死亡者の数で、子供たちが犠牲になります。

21 世紀に入り、世界の感染症対策の枠組みは大きく前進しました。国際組織が主導して資金と技術を提供し、感染症に挑む試みです。南太平洋のソロモン諸島国のマラリア対策には日本チームが参加しました。

マラリアには診断薬も治療薬もあります。媒介蚊を駆除しない限りマラリア感染はなくなりませんが、迅速に診断し適正に治療すればマラリア死亡は避けられます。ソロモン諸島では、発熱した患者は近くのクリニックを受診し、そこでマラリアの診断・治療ができるようにルールを徹底しました。住民には健康教育を説き、クリニックには診断セットと治療薬を常備する。地域住民、クリニック・中央の保健セクターが適切に行動することでマラリア死亡をなくす作戦でした。

ところがマラリア死亡はゼロになりませんでした。ルールを整備して、運用するだけでは人間の行動は変わらなかったのです。行動を変えるにはどうするか、難しい課題が残りました。　【川端 記】

《ご略歴・プロフィール》

1949 年：三重県生まれ。1974 年：日本大学医学部卒業。1979 年：国立予防衛生研究所（国立感染症研究所）研究員。1993 年：神戸大学医学部国際交流センター教授。神戸大学国際協力研究科・保健学研究科教授（兼任）。2014 年：退職。現在：NPO 法人まちづくりジャパン理事長、神戸大学名誉教授。

中南米諸国：オンコセルカ症・シャガス病対策プロジェクト。東南アジア諸国：マラリア・デング熱研究プロジェクト、ヘルスセクター・リフォーム計画。ソロモン諸島：1995 年よりマラリア対策プロジェクトに参加。

6 月 19 日　(日)13 時 30 分～／チサンホテル神戸(「高速神戸」駅直結)

13 時 30 分～　総会議事　2Ｆあじさい
15 時 30 分～　記念講演
17 時 00 分～　懇親会　　3Ｆ六甲　(参加費不要)

ご参加の場合　FAX 078-393-1802【組織】までご返信ください〈兵庫県保険医協会　第 48 回総会〉

□議事から出席します
□記念講演に参加します（　　）人
□懇親会に参加します

（医療機関名　　）（お名前　　）